令和7年度 学校経営方針

1 教育の基本理念

<キャッチフレーズ> 「チャンス！ チャレンジ！ チェンジ！」で

「夢を育み 未来を創る 尾山台小 みんな笑顔 みんな輝け おや小っ子」
を目指す。

2 学校教育目標

「確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童」

～ 明るい子 考える子 たくましい子 ～

(1) 目指す児童像

- ア 明るい子・・・元気にあいさつする子、笑顔あふれる子
- イ 考える子・・・自ら学ぶ子、仲間と共に学ぶ子
- ウ たくましい子・・・すすんで体を動かす子、最後までやりぬく子

(2) 目指す学校像

「児童・保護者・地域から信頼される、活力に満ちた学校」

～ 伝統を生かし、これからの学びを創造する ～

- ア 明るくきれいに環境が整った学校
- イ 自立する力の基礎を培う学校
 - ※自立＝自己実現と捉え、自己有用感に裏付けされた自己肯定感を醸成
 - 「自己有用感」とは、人の役に立った、人から感謝された、人から認められた等の自分と他者との関係を自他共に肯定的に受け入れることで生まれる、自己に対する肯定的な評価。
- ウ 豊かな心を育む学校
- エ 教育力を結集して向上する学校

(3) 目指す教師像

「教育への情熱とチャレンジ精神に満ちた教師」

～ 自己研鑽を積み、アップデートする ～

- ア 専門性を探究する教師
- イ 健康で人間性豊かな教師
- ウ 愛情ある厳しさと温かさで児童に寄り添う教師
- エ 誠実に対応する教師

3 学校経営の基本方針

「学校は子供たちのためにある」、「学校は学ぶ喜び・絆・夢を育むところ」を経営理念に、児童が自ら学ぶこと、仲間と共に学び合うことに喜びを感じ、確かな学力・豊かな心・健やかな体を育める場所を保障する。令和の日本型学校教育の構築に向け、全ての多様な子供の可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して、教職員は教育に対する情熱とチャレンジ精神をもって授業改善を繰り返す。

教職員・児童・保護者・地域が一体となった、誇れる学校、信頼される学校、活力に満ちた学校創りを実現する。そして、子供が主役の学校、誰一人とり残さない学校を目指す。

*「令和の日本型学校教育」とは、従来からの「日本型学校教育」の成果や強みを確認するとともに、時代の要請に即した必要な改革を進めることで、ブラッシュアップすること。「成果や強み」とは、学校が学習指導のみならず、生徒指導等の面でも主要な役割を担い、様々な場面を通じて、子供たちの状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子供たちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は全ての子供たちに一定水準の教育を保障する平等性の面、全人教育という面などについて諸外国から高く評価されている。国際的に比較して、日本の児童生徒及び成人は、OECD各国の中でもトップクラスの成績であり、日本の教育が成功を収めている要素として、子供たちに対し、学校給食や課外活動など広範囲にわたる全人的な教育を提供している点が指摘されている。

一方で、我が国の経済的発展を支えるために「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたとおりにできる」上質で均質な労働者の育成が高度経済成長期までの社会の要請として学校教育に求められてきた中で、「正解（知識）の暗記」の比重が大きくなり、「自ら課題を見付け、それを解決する力」を育成するため、他者と協働し、自ら考え抜く学びが十分なされていないのではないかという指摘もある。

情報化が加速度的に進む Society5.0 時代において求められる力の育成に関する課題も指摘され、GIGAスクール構想により令和時代における学校の「スタンダード」として整備された一人一台端末や高速大容量ネットワーク環境の効果的な活用とその日常化が強く望まれてもいる。

(2021年、中央教育審議会答申より抜粋)

4 令和7年度の重点目標

『確かな学力』

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

ア ICT端末、eポータルや授業支援クラウド、AI型ドリル、生成AI等の積極的な活用

*学習eポータルとは、日本の初等中等教育（学校教育）に適した共通に必要な学習管理機能を備えたソフトウェアシステムのこと。

授業支援クラウドとは、双方向授業での学び合いを可能とするもの。教材データの配付を画面配信でペーパーレスの実現ができたり、提出データの共有により児童生徒同士の学び合いが促進されたりする。

AI型ドリルとは、教材にAIを導入し、児童生徒の理解度に応じて復習問題を反復、または自動選択で表示する等の機能をもたせたもの。

生成AIについては、情報活用能力の育成に当たり、生成AIが社会の中で果たす役割や影響、生成AIに関する法・制度やマナー等について科学的な理解に裏打ちされた形で理解すること、問題の発見・解決等に向けて生成AIを適切かつ効果的に利活用し、情報社会に主体的に参画する態度を身に付けていくことが期待される。特に、多くの社会人が生産性の向上に活用している生成AIの仕組みの理解や、どのように学びに生かしていくかという視点、近い将来使いこなすための力を各教科等の中においても意識的に育てていく姿勢は重要であり、生成AIが更に社会生活に組み込まれていくことを念頭に置き、発達の段階や各学校段階、児童生徒を取り巻く環境や地域の実情等を踏まえつつ、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていく必要がある。

イ カリキュラム・マネジメントの視点から、教科横断的な系統立てた指導の実践

ウ 単元内自由進度学習による、自ら学ぶ意欲の向上

エ 総合的な学習の時間・生活科の 経験単元による探究力や問題解決能力、他者と協働する力の向上

オ 多様な児童に対応する少人数指導、TT、一部教科担任制による基礎・基本の着実な定着

カ 自主学習の推奨による、自律した学習者の育成

(2) グローバル化に対応する教育

ア 「上尾市英語力向上プラン」に則った、ALTを活用した英語教育の実践

イ English Café（英語で遊ぼう）の充実

ウ GETスピーチコンテスト（英語で話そう）などを企画し、英語で表現できる機会を拡大

『豊かな心と健やかな体』

(3) 豊かな心の育成

- ア 「スクールワイドPBS」による、褒める教育の推進
 - *PBS (Positive Behavior Support) = ポジティブな行動支援。行動の理由を明らかにし、その理由に基づいた支援計画を立てること。スクールワイドPBSとは、それを学校全体で同じ指針をもって取り組むこと。
- イ 「GETタイム」「GETフェスティバル」での、異学年交流の充実
- ウ 「のびのびタイム(昼休み)」「ロングのびのびタイム(ロング昼休み)」の自由遊びの推進
- エ 「よむよむタイム」での読書活動、読み聞かせの実施
- オ 道徳や特別活動の時間などを通して、いじめの未然防止に資する指導の実践
- カ DE&Iの視点をもった教育環境の整備
 - *DE&Iとは、D (Diversity 多様性) E (Equity 公平性) I (Inclusion 包摂性)の頭文字。企業理念や教育理念などに多様性・公平性・包括性を取り入れて公平な機会のもと、多様な人材が互いに尊重し合い、力を発揮できる環境を実現するという概念。

(4) 健やかな体の育成

- ア 「青空タイム」での体力づくりの推進
 - 「全校鬼ごっこ」「らんらんタイム(5分間走)」「縄跳び検定」「大縄大会」
 - 「ドッジボール大会(仮)」「鉄棒教室(仮)」「跳び箱教室(仮)」など
- イ 雨の日や熱中症対策・大谷グローブを活用した、体育館開放
- ウ 栄養士と共同した食育授業と給食指導の実施
- エ 生命の安全教育「プライベートゾーン」学習の取組
- オ 専門家招聘による各種教室・講座の開催
(歯磨き指導、がん教育、目の健康講座、心肺蘇生教室、薬物乱用防止教室、おなか元気教室、ボール投げ教室等)

『信頼される学校』

(5) 安心・安全な学校づくり

- ア いじめへの迅速・組織的・誠実な対応 ～いじめの見逃しゼロ～
 - 「上尾市いじめ防止等のための基本的な方針」「上尾市いじめ重大事態対応マニュアル」に基づき対応する。
 - 「いじめは絶対に許されない」「いじめは卑怯な行為である」「いじめはどの子供にも、どの学校でも起こりう

る」との意識をもち、最優先課題として捉え、積極的に認知し、組織で迅速に対応する。

*「いじめ」について・・・①けんかやふざけ合いであっても、見えないところで被害が発生している場合もあることから、丁寧な調査をして判断する。②いじめは、単に謝罪をもって安易に「解消」とはできない。③いじめが解消している状態とは、「被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為が止んでいる状態が相当の期間（3か月目安）継続」、「被害者が心身の苦痛を受けていない（本人や保護者の面談等で確認）」という二つの要件が満たされていることを指す。④教職員がいじめに関する情報を抱え込み、対策組織に報告を行わないことは法に違反し得ることから、教職員間での情報共有を徹底する。⑤学校は、いじめ防止の取組内容を基本方針やホームページなどで公開することに加え、児童生徒や保護者に対して年度当初や入学時に必ず説明する。

- イ 「子供見守り活動」による、いじめ防止の推進
- ウ 各種災害を想定した避難訓練の実施（地震、火事、竜巻、不審者等）
- エ 登校時の立哨指導、継続的・計画的な通学班指導・一斉下校
- オ 毎月の安全点検による環境整備の徹底

（6）生徒指導・教育相談・特別支援教育 体制の充実

- ア 月例委員会による、全教職員共通理解の下での組織的対応
- イ ABプラン、支援カード、アセスメントカードによる連続性のある支援
- ウ 「上尾市不登校対策基本方針」に基づいた、不登校傾向児童の未然防止・早期発見・早期対応等の組織的対応
- エ すべての児童の安心できる居場所づくりスペシャル・サポート・ルーム「ほっとルーム」「保健室」等の活用
- オ サポーターの適切な配置
- カ 幼保小中、各種専門機関との連携強化、瓦葺中学校区における小中一貫教育の推進
- キ スクールカウンセラー・さわやか相談員との連携
- ク 就学支援委員会の適切な運用

（7）適切な情報発信及び共有

- ア 学校配信メール「さくら連絡網」による迅速な連絡・学校と保護者との双方向のやりとり
- イ 学校ホームページによる、児童の活動や行事の様子等の情報提供
- ウ 「学校だより」「保健だより」「食育だより」の毎月発行
- エ 「学年だより」の毎週発行
- オ 学校公開、授業参観・懇談会、PTAオープンミーティングの開催
- カ 小中一貫教育の視点からの連携・情報共有